

甲斐市文化財調査報告 第17集
(山 梨 県)

原 腰 遺 跡 II

宅地造成工事に伴う

古墳時代・平安時代の発掘調査報告書

2010

甲斐市教育委員会

甲斐市文化財調査報告 第17集
(山 梨 県)

原 腰 遺 跡 II

宅地造成工事に伴う

古墳時代・平安時代の発掘調査報告書

2010

甲斐市教育委員会

序 文

甲斐市には219箇所の埋蔵文化財包蔵地があります。そのなかで、数島地区には、75箇所が範囲としてくられています。この埋蔵文化財包蔵地は、発掘調査済み、未調査に関係なく、遺跡がある又は、遺跡がある可能性が高いと考えられている地域です。

数島地区では、中央自動車道の建設工事によって確認された、弥生時代の遺跡、金の尾遺跡や都市計画街路愛宕町下条縦建設に伴って調査された縄文時代から平安時代にかけての松ノ尾遺跡、山梨県最古の窯跡で、7世紀第3四半期から第4四半期の天狗沢瓦窯跡などの発掘調査が行われています。近年では、宅地造成工事とともなって松ノ尾遺跡の13次調査、末法遺跡4次調査が行われ、県道田富数島線道路拡幅工事に伴って御岳田遺跡4次調査などがおこなわれました。

原郷遺跡では、平成元年(1989)に数島町教育委員会によって、現数島総合文化会館敷地内で発掘調査が行われました。ここからは、縄文時代、古墳時代、平安時代の住居跡、溝、土坑などが確認されています。

今回の調査場所は、前回の調査から南へ約250mの位置にあります。ここからは、古墳時代から平安時代の遺物が多く確認され、古墳時代から奈良時代にかけての建物跡と平安時代の住居跡が確認されています。今回の調査は、宅地造成工事を原因とする緊急発掘調査であり、本書はその調査成果をまとめたものであります。

今後は、調査で得られた多くの資料を後世へ伝えるとともに、今後の研究、教育普及活動の資として、活用するよう努めてまいります。

おわりに、土地所有者である窪田み代子氏及び、工事主体者である株式会社ヒロキハウジングの文化財保護に対する深いご理解のもと調査が実施できましたことに感謝するとともに、ご指導、ご協力いただきました関係各位に感謝申し上げます。

2010年3月

甲斐市教育委員会

教育長 上野博文

例 言

1. 本書は、甲斐市鳥上条地内に所在する原厩遺跡の第2次調査をまとめた発掘調査報告書である。
2. 本書は、窪田み代子氏、有限会社ヒロキハウジングによる宅地造成工事に先立ち、甲斐市教育委員会が発掘調査を実施した。
3. 調査は、試掘調査を大嶋正之、須長愛子が担当し、平成21年3月16日～3月31日まで行った。本調査は、平成21年4月20日～5月12日まで行った。
4. 遺構・遺物の測量においては、国家座標Ⅶ系に基づいて、山梨県公共測量作業規定および同運用基準に定める4級基準点測量に基づく精度により、図面作成を行っている。
5. 本書の執筆、編集、遺構・遺物の写真撮影は須長が担当し、校閲は大嶋が行った。
6. 本書にかかわる出土遺物および記録図面、写真などは甲斐市教育委員会で保管している。
7. 調査組織は、次のとおりである。

調査主体者	甲斐市教育委員会
調査担当者	大嶋正之（甲斐市教育委員会生涯学習文化課） 須長愛子（甲斐市教育委員会生涯学習文化課）
調査事務局	甲斐市教育委員会生涯学習文化課
8. 調査に係わる費用は、窪田み代子氏が負担した。
9. 発掘・整理調査参加者（甲斐市文化財調査協力員）
飯室久美恵・磯村美佳・上野光雄・小林明美・高添美智子・立花重光・堀吉彦・羽中田勲・古屋秀雄・望月典子・森澤篤美（敬称略）

凡 例

1. 本書の第1図は国土地理院の地形図を用いて、作成したものである。
2. 第4図建物跡遺構中の■は焼土範囲を示している。また、[●]は遺物の出土地点を表している。
3. 遺物図面の土器断面■は須恵器を表す。
4. 遺物図面の土器断面■は灰釉陶器を表す。
5. 遺物番号は本文、観察表で統一してある。

本文目次

序文

例言・凡例

目次

第1章 遺跡をとりまく環境	
第1節 遺跡の位置と環境	1
第2節 原辰遺跡の概要	1
第2章 遺構と遺物	
第1節 住居跡	4
第2節 建物跡	5
第3節 竪穴状遺構	8
第4節 土坑	9
第5節 溝	10
第3章 まとめ	12

挿図目次

第1図 原辰遺跡と周辺の遺跡	2
第2図 調査区位置図および全体図	3
第3図 住居跡・出土遺物	4
第4図 建物跡	5
第5図 焼土部分・出土遺物	6
第6図 建物跡出土遺物	7
第7図 竪穴状遺構・出土遺物	8
第8図 1、2号土坑、3号土坑・出土遺物	9
第9図 4、5号土坑	10
第10図 1、2号溝、3号溝・出土遺物	11

表 目 次

第1表	住居跡出土遺物観察表	4
第2表	建物跡出土遺物観察表	6
第3表	竪穴状遺構出土遺物観察表	8
第4表	3号土坑出土遺物観察表	10
第5表	3号溝出土遺物観察表	10

図 版 目 次

図版1-1	1号トレンチ	図版3-2	2号土坑
図版1-2	2・3号トレンチ	図版3-3	3号土坑
図版1-3	4号トレンチ	図版3-4	4号土坑
図版2-1	住居跡	図版3-5	5号土坑
図版2-2	住居跡カマド	図版3-6	1号溝
図版2-3	建物跡遺物出土状況	図版3-7	2号溝
図版2-4	焼土部分遺物出土状況	図版3-8	3号溝
図版2-5	建物跡	図版4-1	住居跡出土遺物
図版2-6	竪穴状遺構	図版4-2・3・4・5・6	建物跡出土遺物
図版3-1	1号土坑	図版4-7	3号溝出土遺物

第1章 遺跡をとりまく環境

第1節 遺跡の位置と環境

山梨県北部には八ヶ岳、秩父山地、東部には関東山地、南部には富士山、御坂山地、丹沢山地、西部には巨摩山地、赤石山脈（南アルプス）があり、甲府盆地を取り囲んでいる。また、秩父山地を水源とする笛吹川と赤石山脈の鋸岳を水源とする釜無川が甲府盆地を流れ、それぞれ支流を集めつつ、盆地南西部で合流し富士川となり、駿河湾へと注いでいる。

甲斐市は、甲府盆地の北西部に位置し、南北に細長い形をしている。甲斐市の北部には、茅ヶ岳（1703.5m）、曲岳（1642m）、太刀岡山（1295m）などの山々があり、茅ヶ岳や黒富士（1635m）などの火山活動によって形成された赤坂台地を中心とする丘陵が市の中心部までのびている。東部には、秩父山地を源流とする荒川が流れ、扇状地が広がる。西部には釜無川が流れており、南部は扇状地が広がっている。市内の標高は、一番高いところが甲斐市北部にある金ヶ岳頂上付近の1752m、低いところが甲斐市の南部隣町（中巨摩郡昭和町）との境で264.2mと標高差が1400mを越え、環境に富んだ地域にある。

第2節 原腰遺跡の概要

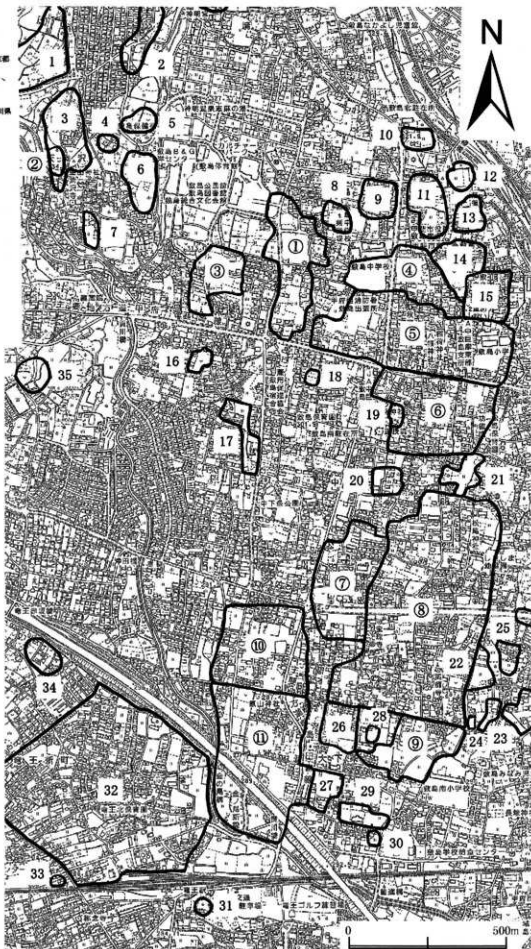
本遺跡は、奥秩父山系の金峰山を源として南流する荒川が甲府盆地へ流れ込んだ扇状地の扇尖部に位置し、標高は約309mである。

周辺地域には遺跡が多く分布している。調査地点北西側の台地上には、白鳳時代の天狗沢瓦窯跡（県指定史跡）や、東方には、室町時代（15世紀代）の仏具が出土した山宮地遺跡があり、南東側には縄文から平安時代にかけての複合遺跡、松ノ尾遺跡がある。

本遺跡の一部は、平成元年（1989）に旧数島町の施設建設前の事前調査によって、一度発掘調査が行われている。第1次調査では、縄文時代前期の竪穴住居跡1軒、古墳時代前期の竪穴住居跡6軒、平安時代末期の竪穴住居14軒などが確認されている。その場所は、現在、甲斐市の数島総合文化会館として、公民館、図書館がある。

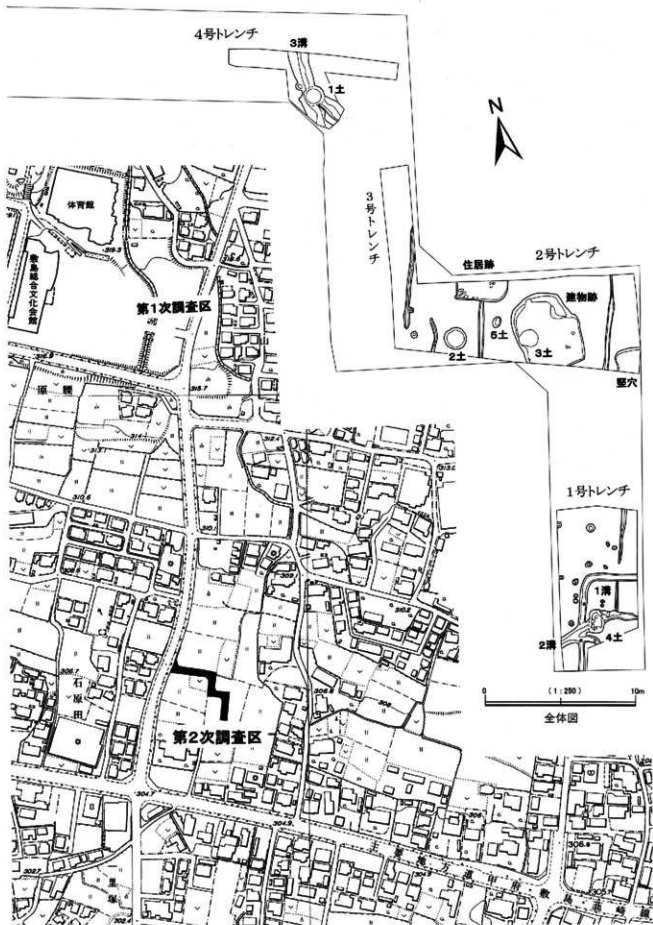
今次調査区は、1次調査の場所から、約250m南に位置している。

宅地造成工事ともなっており、平成21年3月16日から31日にかけて試掘調査が行われ、遺構・遺物が確認されたため、発掘調査にいたった。今回の調査では、道路部分が発掘調査の対象となり、その部分から、平安時代の住居跡1軒、古墳時代の建物跡1棟のほか、竪穴状遺構1箇所、土坑5基、溝跡3条が確認された。



- ① 原腰遺跡
- ② 天狗沢瓦葺跡
- ③ 石原田遺跡
- ④ 山宮地遺跡
- ⑤ 村統遺跡
- ⑥ 不動ノ木遺跡
- ⑦ 三味堂遺跡
- ⑧ 松ノ尾遺跡
- ⑨ 末法遺跡
- ⑩ 御岳田遺跡
- ⑪ 金の尾遺跡
- 1 村東遺跡
- 2 西ノ原遺跡
- 3 天狗沢遺跡
- 4 上峰遺跡
- 5 上峰北遺跡
- 6 原遺跡
- 7 笹原遺跡
- 8 蛇石遺跡
- 9 上町北遺跡
- 10 大塚遺跡
- 11 塚田西遺跡
- 12 塚田北遺跡
- 13 塚田遺跡
- 14 大庭遺跡
- 15 大庭古墳
- 16 金ノ宮遺跡
- 17 日ノ詰遺跡
- 18 西町遺跡
- 19 前田遺跡
- 20 寺前遺跡
- 21 宮地遺跡
- 22 大下条第1遺跡
- 23 大下条第2遺跡
- 24 大下条第3遺跡
- 25 中沢B遺跡
- 26 泉尻A遺跡
- 27 泉尻B遺跡
- 28 深田A遺跡
- 29 深田B遺跡
- 30 深田C遺跡
- 31 東裏遺跡
- 32 沖田遺跡
- 33 元免許遺跡
- 34 八幡遺跡
- 35 鳥塚C遺跡

第1図 原腰遺跡と周辺の遺跡



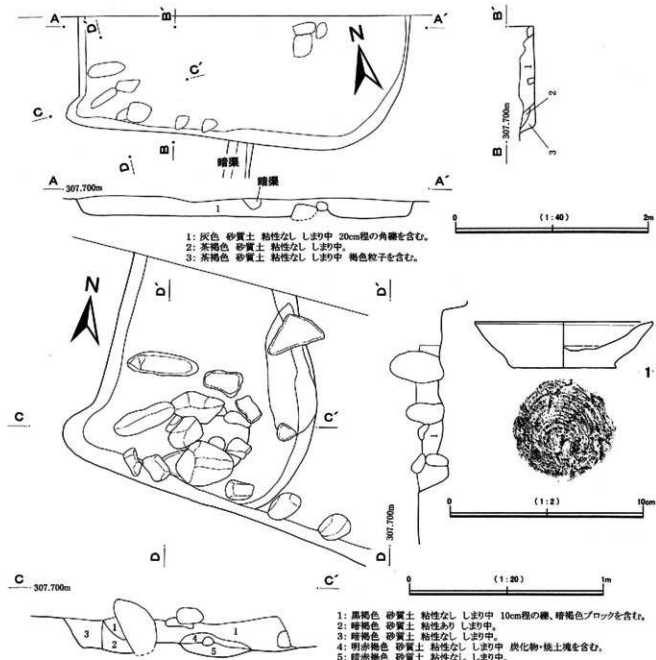
第2図 調査区位置図および全体図

第2章 遺構と遺物

第1節 住居跡

東西3.5メートル、南北1.1メートルを測る。調査区北側の壁に分断され、全体の大きさ、形状を把握できなかった。深さは20cm、壁は緩やかに立ち上がる。また、南西コーナーには、石組みのカマドが設置されている。

土師質の土器（第3図No.1）が、出土していることから、平安時代末から、中世にかけての遺構と考えられる。



第3図 住居跡・出土遺物

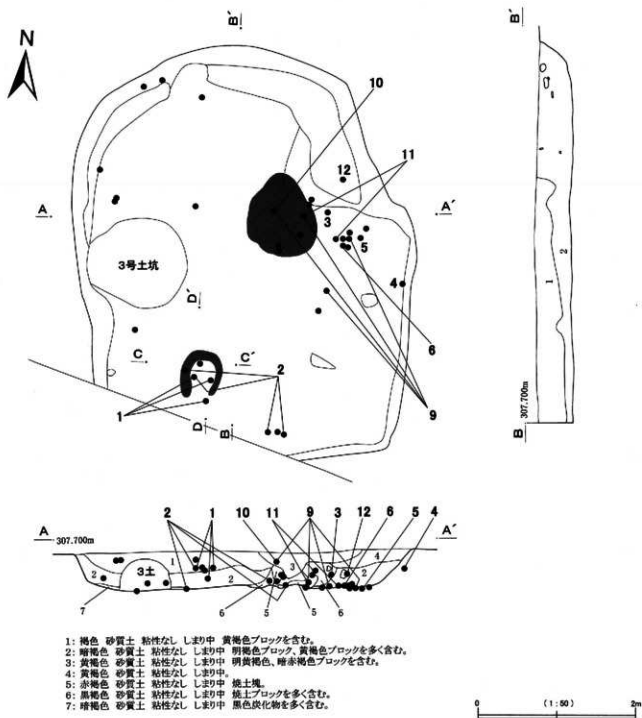
第1表 住居跡出土遺物観察表

番号	注記番号	器種	器形	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	色調	胎土	焼成	文様・特徴	時代
1	C2シクツ-1 住カマドP-1	土師質土器	小皿	9.2	5.4	2.4	暗褐色 7.5YR3/4	金雲母多量	良好	底部糸切痕	平安末

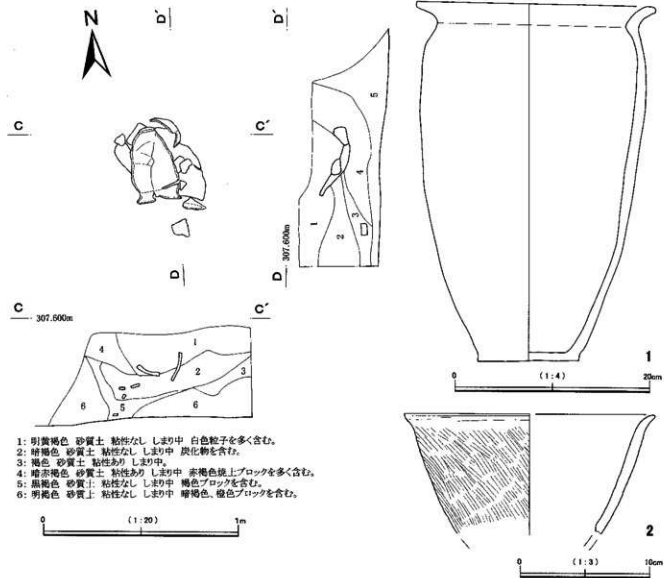
第2節 建物跡

東西は4.3m、南北4.9mを測る。調査区南壁に隠れているため、遺構の全貌は定かではないが、おおむね長方形と考えられる。深さは47cm、壁は緩やかに立ち上がる。この遺構からは、床面直上から須恵器の蓋（第6図No 4・6）が確認できた。このことから、遺構は古墳時代6世紀第3四半期から7世紀第2四半期のものであると考えられる。

遺構内の南西部分には、焼土の塊がみられ、その中から、割れた状態ではあったが、ほぼ完形の長胴甕（第5図No 1）が確認できた。この長胴甕は、第1層から確認されたことから建物跡に伴うものではないと考えられる。また、形状から、7世紀末から8世紀にかけてのものであると考えられる。



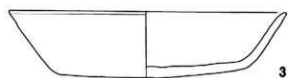
第4図 建物跡



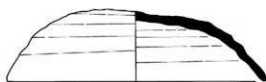
第5図 焼土部分・出土遺物

第2表 建物跡出土遺物観察表

番号	比較番号	器種	器形	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	色調	胎土	焼成	文様・特徴	時代
1	C2-建南 シヨウフP-1・3・4	土師器	長胴壺	25.4	10.35	37.2	明赤褐色 5YR5/8	赤色粒子・白色粒子	良好		7C末~8C
2	C2-建南 シヨウフP-1・5	土師器	壺	(19.2)		残9.3	明赤褐色 5YR5/8	白色粒子	良好	外面斜め方向ハケメ	
3	C2-建P 9	土師器	杯	14.2		3.7	褐 5YR6/8	赤色粒子	良好	内面ミヅキ	7C末~8C
4	C2-建P 11	須恵器	壺	13.7	5.5	4.5	明焼灰色 7.5YR7/2		不良		6C末~7C
5	C2-建P-20	須恵器	壺	(14.2)		残3.4	灰白色 2.5Y7/1		良好	底部糸切痕	?
6	C2-建P-14	須恵器	壺	(15.4)		残3.4	灰色 10Y5/1	きめ細かい	良好		?
7	C2-建4-括	縄文土器				残4.8	にじみ赤褐色 5YR4/4	長石・石英・金雲母	良好		須恵B 縄文前期後半
8	C2-建2-括	土師器			(7.6)	残3.4	にじみ赤褐色 10Y R5/4	長石・石英・白色粒子	良好	外面底部網代痕	
9	C2-建P-5 P-6・18・21	土師器	甕	(26.2)	(8.8)	23.3	灰褐色 7.5YR4/2	長石・石英・小石	良好	内底指跡痕 外面斜め方向ハケメ	
10	C2-建P-5	土師器	長胴壺	(21.4)		残11.7	黒褐色 7.5YR3/2	長石・石英・砂粒	良好	内面山辺部縦方向ハケメ 外面底部縦方向ハケメ	
11	C2-建P-6・15	土師器	小形壺	(11.7)	(8.0)	18.9	暗褐色 7.5YR3/3	長石・石英・小石	良好	内面斜め方向ハケメ 外面斜め方向ハケメ	
12	C2-建S-2	石製土	砥石	最大幅 6.8	最大厚 4.5	6.2	灰白色 10Y7/2		劣部		



3



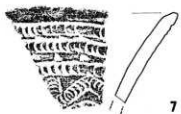
4



5



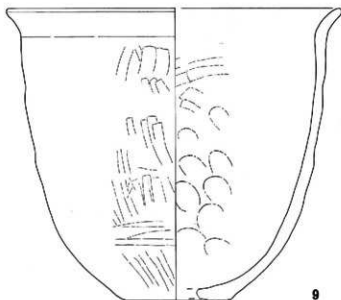
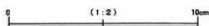
6



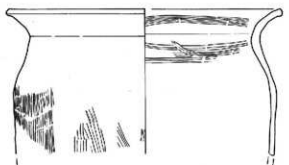
7



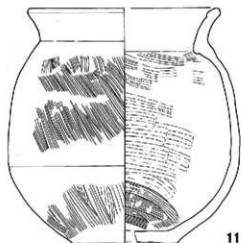
8



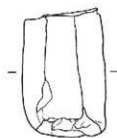
9



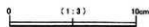
10



11



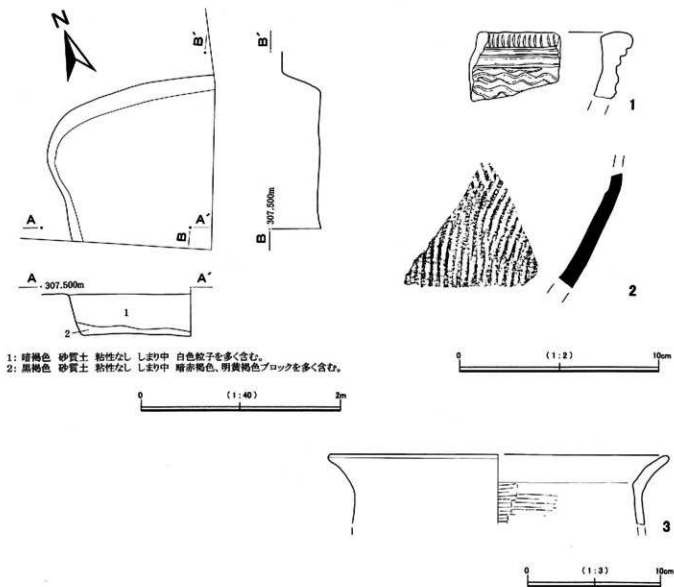
12



第6図 建物跡出土遺物

第3節 竪穴状遺構

南北1.6m、東西1.3mを測る。2号トレンチ南東角にあり、東壁、南壁にさざがられているため、遺構の形や規模を推測することは難しい。この範囲の中で、確認できた出土遺物は、縄文土器（第7図No.1）や須恵器（第7図No.2）などであった。



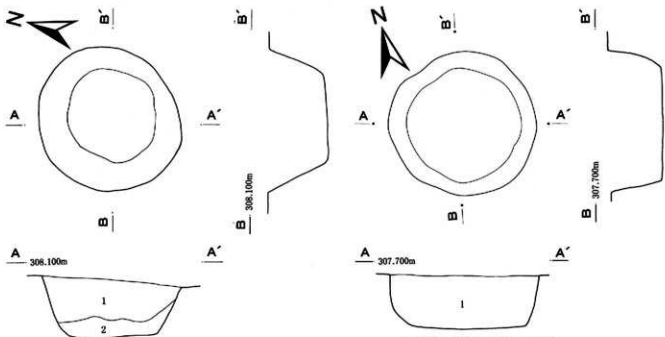
第7図 竪穴状遺構・出土遺物

第3表 竪穴状遺構出土遺物観察表

番号	注記番号	器種	器形	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	色調	胎土	焼成	文様・特徴	時代
1	C 2-タテアナ	縄文土器				残3.4	にぶい赤褐色 5YR	長石・石英・黒雲母	良好		
2	C 2-タテアナ	須恵器	甕			残6.0	灰色 N5		良好	外面タタキ	
3	C 2-タテアナ	土師器		(25.0)		残5.3	にぶい黄褐色 10YR6/4	長石・石英	良好	内面横方向ハケメ	

第4節 土 坑

土坑は、5基確認できた。1号土坑から、3号土坑までは、円形をしており、大きさもほぼ同じである。4号土坑は、2号溝に切られており、全体を把握することができない。5号土坑は、楕円形をしている。それぞれの遺構からは出土遺物は少なく、掲載できるものが、わずかであった。

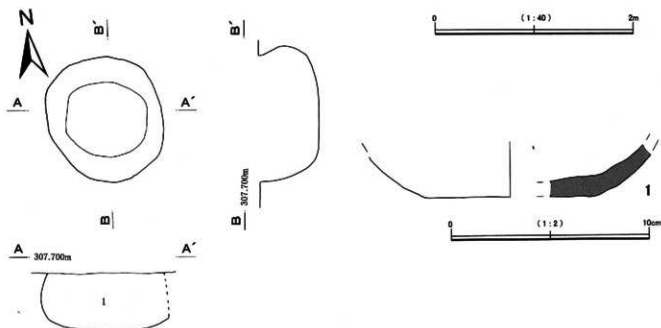


1: 灰色 砂質土 粘性あり しまり中 褐色塊、茶褐色塊をまだらに含む。
2: 茶褐色 砂質土 粘性あり しまり中。

1: 暗茶色 砂質土 粘性あり しまり中。

1号土坑

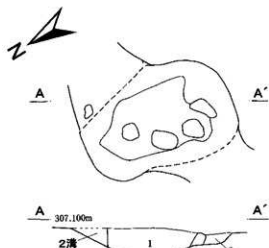
2号土坑



1: 灰褐色 砂質土 粘性なし しまり中 5cm程の円礫、5mm程の白色粒子を含む。

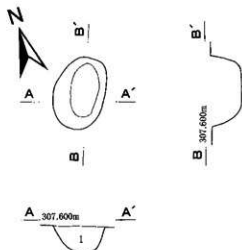
3号土坑

第8図 1・2号土坑、3号土坑・出土遺物



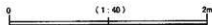
1: 暗褐色 砂質土 粘性なし しまり中 褐色の塊をまだらに含む。
2: 黄褐色 砂 粘性なし しまり弱 1cm程度の円礫を含む。

4号土坑



1: 暗褐色 砂質土 粘性なし しまり中 5mm程度の円礫を含む。

5号土坑



第9図 4・5号土坑

第4表 3号土坑出土遺物観察表

番号	注記番号	器種	器形	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	色調	胎土	焼成	文様・特徴	時代
1	C2-3+ P-1	灰釉陶器			(9.0)	残2.6	灰白色 5Y7/1		良好	内面釉薬	

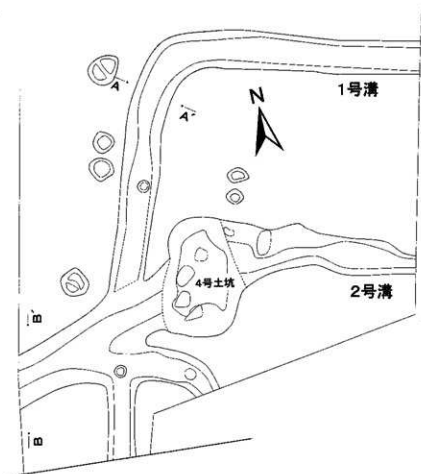
第5節 溝

溝は、3条確認できた。1号溝は1号トレンチ内にあり、幅が50cm、深さが15cmのU字状をしている。また、途中、2号溝に切られている。1号溝は、途中で東に90度向きが変化していることなどから、用途は不明であるが、何らかの機能を果たしていたと考えられる。2号溝は、4号土坑を切っている。

3号溝は、4号トレンチ内にあり、幅1.4m、深さ60cmのV字状をしており、溝からは、古墳時代の甕の破片（第10図№1）や磨製石斧（第10図№2）などが出土している。1号土坑によって切られている。

第5表 3号溝出土遺物観察表

番号	注記番号	器種	器形	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	色調	胎土	焼成	文様・特徴	時代
1	C2-3ミソ P-1	土師器	甕	(18.3)		残5.0	によう赤褐色 5YR4/3	白色粒子	良好	外面横方向ハケメ	
2	C2-3ミソ S-1	石製品	石斧	最大長 18.1	最大幅 5.4	最大厚 5.1	暗緑灰色 10GY3/1				



A 307.200m A'

1: 黒褐色 砂質土 粘性なし しまり中、
10cm位の円礫を含む。

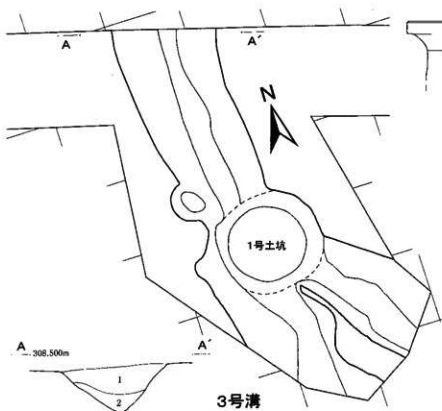
1号溝

B 307.100m B'

1: 褐灰色 砂質土 粘性なし しまり中、
白色粒子を含む。

2号溝

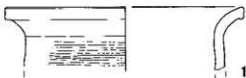
0 (1:50) 2m



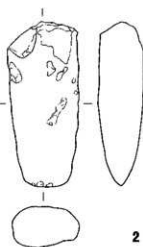
A 306.500m A'

1: 褐色 砂質土 粘性なし しまり中 白色粒子を多く含む。
2: 暗褐色 砂質土 粘性なし しまり弱。

3号溝



1



2

0 (1:3) 10cm

第10図 1・2号溝、3号溝・出土遺物

第3章 まとめ

原腰遺跡の調査は、今回で2回目となる。前回は、平成元年（1989）に旧敷島町教育委員会（現在は合併して甲斐市となっている）によって、敷島総合文化会館の敷地内東地点で調査が行われた。その結果、縄文・古墳・平安時代の住居跡・溝・土坑などが確認されている。

今回の調査場所は、前回の調査から南へ約250mの位置にある。

調査区は、宅地造成に伴う、新設道路建設部分で約170㎡である。そこから、住居跡1軒、建物跡1棟、竪穴状遺構1箇所、土坑5基、溝跡3条が確認できた。

住居跡は、調査区の北側壁に分断され、全体の大きさ、形状を把握できなかったが、南西コーナーから石組みのカマドが確認できた。また、カマドから土師質の小皿が出土し、平安時代末から中世にかけての遺構と考えられる。

建物跡は、住居跡の東側で確認でき、3号土坑に切られて確認された。建物跡も調査区の壁に分断され、遺構の全体を確認することができなかったが、おおよそ4.9m×4.3mの長方形と考える。深さは、47cmで壁は緩やかに立ち上がる。須恵器の蓋、土師器の坏（盤状）が出土していることから、古墳時代後期（6世紀第3四半期～7世紀第2四半期）のものであると考えられる。

この時期の県内の住居跡としては、北側の壁にカマドを有するものが多いが、この遺構からは確認できなかった。土師器や須恵器の破片が確認できたことから、人々の生活空間であったと考えられる。このことから「建物跡」とした。

また、遺構の南西部分には、焼土の塊がみられ、その中から長胴甕が確認できた。この長胴甕の形態から、7世紀末から8世紀のものと考えられる。

建物跡とは、時期がずれることから、焼土部分は、置きカマドの可能性も考えられる。

竪穴状遺構からは、縄文土器が多く確認できたが、調査区のコーナーに位置していることから、遺構全体の把握にはいたらなかった。

土坑は、1・2・3号土坑が円形でほぼ同じ大きさをしており、堆積土も同様のものであった。遺物は、3号土坑から須恵器の坏が確認できたが、時期の特定にはいたらなかった。

溝は、3条確認でき、1号溝は、途中で東へ90度向きを変えていることなど、特徴的である。遺物は、出土していないため、時期が不明であるが、2号溝より古いことがわかる。3号溝からは、古墳時代の甕の破片や磨製石斧が出土しているが、時期は特定できない。

本遺跡東側には、仏具や中世の遺構を確認した山宮地遺跡、西側には、県内最古のミニチュア土器が出土した縄文時代早期の石原田遺跡がある。この他、原腰遺跡周辺には遺跡が多くみつかり、地形をみると、南北に伸びる尾根が2筋あり、その一つの尾根上に原腰遺跡がある。原腰遺跡での調査は、今回で2回目を数え、1次調査では、古墳時代前期の住居跡6軒、平安時代の住居跡14軒などが確認されている。今回の調査でも古墳から平安時代にかけて、人々が生活していた様子が、わずかではあるが確認できた。このことから、原腰遺跡の北から南にかけて古墳・平安時代の遺構が展開していることが推測できる。また、同じ時期の遺跡として、同尾根上には南側に御岳田遺跡がある。原腰遺跡の東側には、緩やかな谷を挟んでもう一つの尾根があり、そこには、村統遺跡、松ノ尾遺跡、末法遺跡などの集落が点在している。この地域には、連続と人々が生活していたことがわかる。

写真図版

図版 1



1. 1号トレンチ (南から)



2. 2・3号トレンチ (東から)



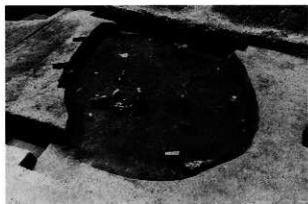
3. 4号トレンチ (南から)



1. 住居跡 (北から)



2. 住居跡カマド (東から)



3. 建物跡遺物出土状況 (北から)



4. 焼土部分遺物出土状況 (北から)



5. 建物跡 (北から)



6. 竪穴状遺構 (北から)

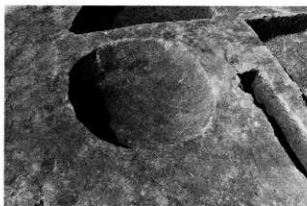
図版3



1. 1号土坑 (東から)



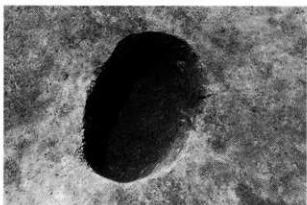
2. 2号土坑 (南から)



3. 3号土坑 (東から)



4. 4号土坑 (西から)



5. 5号土坑 (東から)



6. 1号溝 (南から)



7. 2号溝 (東から)



8. 3号溝 (南から)



1. 住居跡出土遺物 (No.1)



2. 建物跡出土遺物 (No.1)



3. 建物跡出土遺物 (No.4)



4. 建物跡出土遺物 (No.3)



5. 建物跡出土遺物 (No.10)



6. 建物跡出土遺物 (No.12)



7. 3号溝出土遺物 (No.2)

報告書抄録

ふりがな	はらこしいせき							
書名	原腰遺跡Ⅱ							
副書名	宅地造成に伴う古墳時代・平安時代の発掘調査報告書							
巻次								
シリーズ名	甲斐市文化財調査報告書							
シリーズ番号	17							
編著者名	須長 愛子							
編集機関	甲斐市教育委員会							
所在地	〒400-0105 山梨県甲斐市下今井236番地2							
発行年月日	平成22年〔西暦2010年〕3月31日							
所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号	度分秒	度分秒			
原腰遺跡	山梨県 甲斐市 島上条484番1 外	19210	敷-42	35度41分7秒	138度31分25秒	平成21年 4月20日 ～ 平成21年 5月12日	170㎡	宅地造成
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項			
原腰遺跡	その他の墓	古墳時代・ 平安時代	住居跡 建物跡 竪穴状遺構 土坑 溝	土師器 土師質土器				

甲斐市文化財調査報告 第17集

原腰遺跡Ⅱ

発行日 平成22年(2010年)3月31日
 発行 甲斐市教育委員会
 山梨県甲斐市下今井236番地2
 TEL (0551) 20-3658
 印刷 株式会社 少国民社

